

令和8年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立桃山東小学校

全国の小学校6年生を対象に実施されました「令和8年度全国学力学習状況調査」について、結果をまとめました。この調査では、学力調査（国語・算数）と児童への質問調査（学習面・生活面など）も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果(国語・算数)】



本校児童の結果をみると、国語・算数の2教科ともに、全国平均を上回りました。日々の学習を通して、子どもたちの学力の積み上げが確実にできつつあるように感じます。子どもたちが問題に真剣に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢や自ら学ぶ姿が育まれつつあります。

国語科より

- ・全体的に平均を上回りよくできています。
- ・自分の心に残った文章について考えたことをまとめた読みとり問題では正答率が高く、集めた情報をもとに条件に合わせて文章の続きを140字以内で書くこともよくできていました。
- ・「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」「話し方の工夫」に関する問題では、安定した力が見られました。
- ・漢字を正しく書く等（「不思議」と書く問題や「短い」の送り仮名など）に課題がありました。
- ・自分の経験と結び付けて考えをまとめて文章を書くことにはやや弱さが見られました。

算数科より

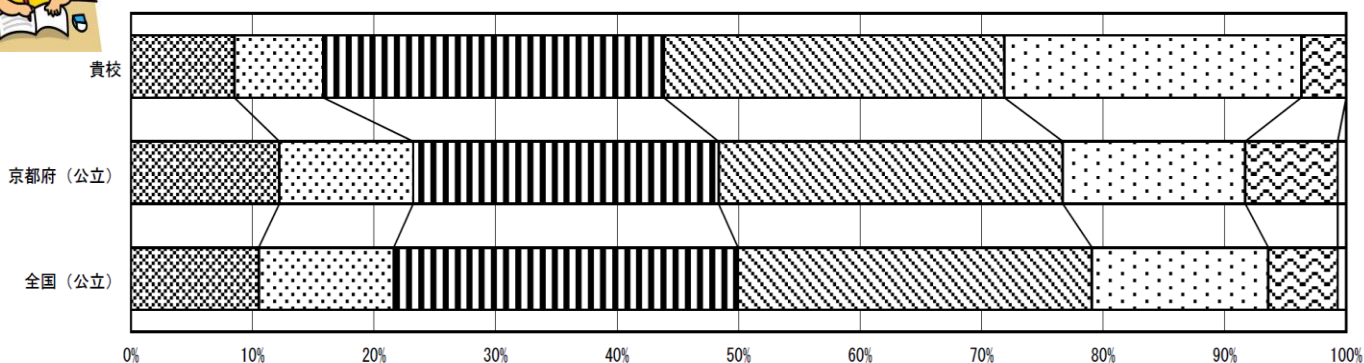
- ・多くの領域・観点で、全国平均を上回り、全体的にできています。
- ・特に、概数で表すことなど数と計算の問題や言葉の意味を理解し、示された数から必要な数を読み取る問題等、「データの活用」の問題で力を発揮しました。
- ・基準量・比較量・割合の関係の示した図を活用する問題や分数の大小を考える問題でも高い正答率でした。
- ・アンケート結果について、様々なグラフ・表などの数値や図を基に考える問題では、正答率が高い結果となりました。

【児童質問紙調査から①】



学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない □4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない ■その他 □無回答



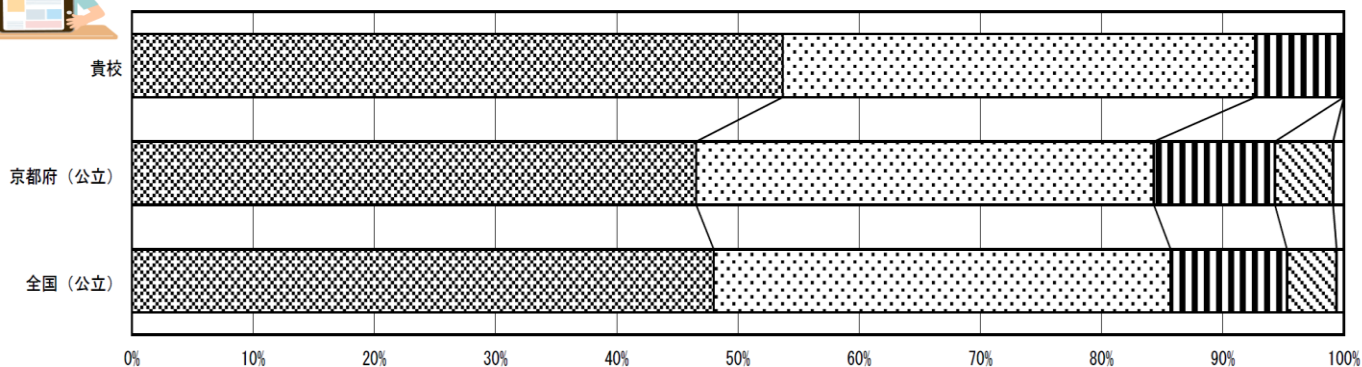
授業以外で「1日3時間以上・2時間以上勉強する」と答えた本校の児童の割合は全国平均や京都府平均と比べてやや下回っている傾向がある一方で、「30分より少ない」と答えた児童は多い傾向があります。放課後や週末の過ごし方を充実させていくとともに、家庭での学習習慣や自主学習の充実を大切にした取組を今後も継続していきたいと思ひます。

【児童質問紙調査から②】

学校に行くのは楽しいと思いますか。



■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 ■無回答



「学校に行くのは楽しいですか」という質問に、当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた本校の児童の割合は全国平均や京都府平均と比べて高い傾向がありました。また、当てはまらなと答えた児童の割合も低い傾向があり、これまでの経年変化からも楽しいと感じている児童の割合が増えてきていることが分かります。これからも「わくわくする学び」「ほかほかな心」「いきいきとした体」を合言葉に、「たのたのな学校」の実現に向け、「自ら」「かかわり」とともに「高め合い」「創り合う」という学びの姿を大切に、児童が主体的に学び、他者と関わりながら成長しく姿を目指していききたいと思います。

【全体を通した本校の成果と課題】

本校では、「自ら かかわり とともに高め合い 創りあう 桃山東の子」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆さまのご協力を得て、取組を進めています。

この学校教育目標は、「自分から・自ら・進んで」をキーワードに、子どもたちの主体的な思いに基づいた授業や取組を大切に、「対話・かかわり」を核にして様々な教育活動を通して、子どもたちがともに高めあう姿や新たな価値や未来を創りあう姿を目指しています。



- ・友達、周りの人、社会、環境、情報など自分の周りにある全てのものに、自らかかわりをもつことを通して、自らの問いをもち、自信のある気づきや考えから、新たな学びを生み出す子ども。
- ・子どもたちが自分も相手も大切にしたいと思う気持ちや、自分の問いや考えを伝え合いたいと思う気持ちを大事にして協働的な学びを進め、子どもたちがお互いに「伝えたい、話し合いたい、聞いてみたい、やってみたい」等のように、「〇〇したい」と思うことができる子ども

これらの子どもの育成は、あらゆる場をフィールドとしてとらえ、幅広く「学び」につなげていくことがとても重要です。めあてをもって学習を進め、自ら振り返りをすることは、学習をする上でとても大切な「主体性」「自ら学ぶ力」となしていきます。また、自ら学ぶことの楽しさや面白さを経験する活動を通して、「学び方」や「ものの考え方」を育てる取組を行っています。

今後も、学校全体の教育活動の中で、子どもたち一人一人が考え、互いのよさを見出すことで、自分や他者が共感できる目標を共に探り、その目標に向かって行動する学びを展開していきたいです。そして、子どもたちが将来展望をもち、自分の可能性をより広げていけるよう働きかけていきたいと思っています。

【保護者の皆さまへ】



全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していき、基本的な生活習慣や日々の学習習慣が、学力の基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。